

しあさい



紅葉真っ只中の野花菖蒲の里で黄色に輝く銀杏の木

CONTENTS

- ふるさと歴史探訪: 鍾乳石・化石 2
- 明日へのかけはし: 東通村食生活改善推進委員会 4
- クローズアップ こんにちは元気さん: 杉本 ^{すぎもと} 文悦さん ^{ぶんえつ} 4
- ファイト! わんぱく: 東通Jr. バレーボールクラブ 5
- 地元の特派員レポート: 山本 ^{やまもと} 蒼音さん ^{あおと} / 相内 ^{あいない} 元太さん ^{げんた} 6



鍾乳石・化石



ふるさと歴史探訪

vol.1

広報誌「しおさい」では今回から、村の歴史をひもとく新企画をスタートします。

東通村教育委員会の監修のもと、こやま たかおみ小山卓臣学芸員にご協力いただき、展示物を通して東通村および下北半島の歴史の歩みを年代順にご紹介していきます。貴重な文化財が語る物語から、ふるさとの魅力を再発見していただければ幸いです。

初回となる今回は、東通村で発見された「鍾乳石・化石」を特集します。太古の自然や生き物を通して、村に息づく歴史と自然に迫ります！

【東通村歴史民俗資料館】

東通村歴史民俗資料館は、旧田屋小中学校の校舎を活用して2013年に開館しました。

北に津軽海峡、東に太平洋という二つの海に囲まれた東通村には、国内唯一の中世アワビ貝塚を含む国指定史跡「浜尻屋貝塚」など、本州最北東端の風土が育んだ歴史・民俗資料が豊富に残されています。館内には、村内から出土した土器、中世から伝わる民俗資料、近世の生活用具などが豊富に展示されており、地域の文化を保存・継承する拠点として親しまれています。

- 入館料／無料
- 開館日／月曜日～金曜日
- 開館時間／10時～15時
- 住所／東通村大字田屋字家ノ上29-2
TEL0175-33-2341 (東通村教育委員会)



鍾乳石

※調査等で不在の場合があるため、来館の際は事前に連絡を。土日などの休館日に入館を希望する場合は、日程調整の上、対応可となる場合あり。

東通村の大地のはじまり

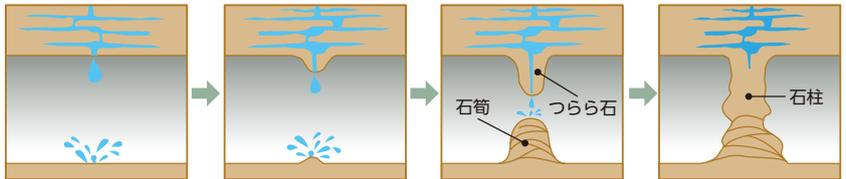
地球が誕生して約45億年。日本列島は今から約1,500万年前、下北半島は約170万年前に形成されました。この時期は「氷河時代」とも呼ばれ、寒冷な「氷期」と温暖な「間氷期」が4回繰り返されました。氷期には海面が大きく低下し大陸と地続きになり、日本海は巨大な湖のような形状となっていました。その後、恐山の火山活動が始まり、現在の海岸平野などが形成されるなどして、東通村の地形が形づくられたと考えられています。

鍾乳石

かつて、尻屋地区の八峠には、青森県内唯一の鍾乳洞が存在していました。この鍾乳洞は、尻屋崎の県道沿いに位置しており、1930年代に石灰岩の採掘中に発見されました。土地は尻屋の共有地で、1956年には青森県の文化財として県の天然記念物に指定されました。数百万年という長い年月をかけて形成された美しい景観は、観光名所としても注目されていたそうです。しかし、1960年代に落盤が起こり、鍾乳洞は失われてしまいました。現在では、資料館にて鍾乳洞の中にあつた貴重な鍾乳石の一部をご覧ください。数百万年前の自然の営みが生み出した鍾乳石の姿から、失われた鍾乳洞の名残に触れてみませんか？



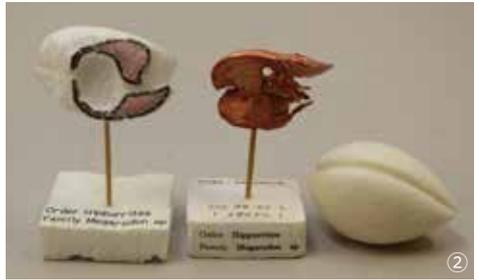
鍾乳石の
でき方



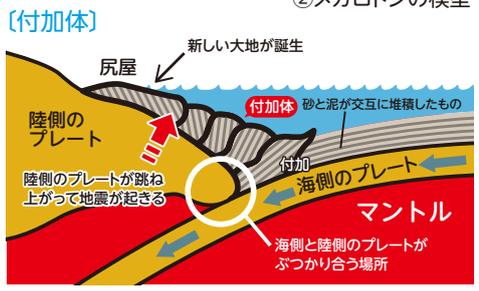
水が落ちてきたところにできる石は、筍(たけのこ)の姿に似ていることから、「石筍(せきじゆん)」と呼ばれます。「つらら石」と「石筍」がくっつくと「石柱」になります。

メガロドンの化石

「メガロドン」という名前を聞くと、「大型のサメ」の古代生物を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、同じ名前が名付けられた二枚貝「メガロドン」について、皆さんはご存知でしょうか。実は、尻屋地区の海岸沿いの石灰岩の中からこのメガロドンの化石が発見されています。メガロドンは、古生代中頃からジュラ紀、北海道から九州に生息していました。尻屋では、石灰岩や生き物の殻がたまってできた堆積岩など、ジュラ期末期から白亜紀初期の付加体(プレートの沈み込みによって陸側に押しつけられ、付け加えられた地質体)に分布しています。尻屋の石灰岩地帯では、厚さ数十センチメートル以上のレンズ状の化石が密集しているのが確認されており、非常に貴重な地質資料となっています。この化石は1974年に発見され、長年の研究を経て2009年に正式に尻屋での分布が確認されました。この発見により、尻屋の石灰岩が形成されたのは2億4千万年前であることが判明し、従来の推定よりもさらに古い時代のものであることがわかりました。ほかにも、尻屋ではメガネウ(鳥の仲間)、尻労ではナウマンゾウの化石が見つかるなど、尻屋周辺は陸生と海生の動物が混在する化石群として、非常に価値の高い地域です。メガロドンは、まだ解明されていないことが多く、今後の研究によって新たな発見が期待される、調査価値の高い化石です。



①メガロドンの化石
②メガロドンの模型



明日への かけはし

東通村の頑張るグループを紹介

地域における健康づくりの担い手! [東通村食生活改善推進委員会]

「東通村食生活改善推進委員会」は、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに活動する、「食改さん」と呼ばれる食生活改善推進員によるボランティア団体です。食を通じて、家族や地域の方々健康づくりを支えています。1994年から活動を開始し、現在では養成講座を修了した23人のメンバーが、元気に活躍しています。

主な活動として、地域住民向けの料理講習会を開催し、「いかずし」や「手作り味噌」など、減塩を意識した郷土料理を紹介しています。また、「愛のひと皿運動」として、減塩や野菜をふんだんに使った料理を地域の方々に提供。老人クラブの総会では、高齢者の健康を意識した料理を振る舞っています。さらに



「伝達研修会」と称し、最新の食情報をメンバーで共有



子どもたちに魚の調理方法をレクチャー

東通村の乳幼児健診では、「ダシ活」によるお吸い物や野菜たっぷりのおかずの試食を行い、好評を得ています。

また、最新の食情報を学ぶため、定期的にむつ保健所管内の「食生活改善推進員連絡協議会合同研修会」に参加し、低カロリーのメニューや高齢者向けの骨太メニューのほか、ポリ袋で調理できる防災メニューなどを習得し、メンバーで知識を共有しています。

会長の南川千恵美さん(65)は、会長として20年の経験を持ちます。食生活改善推進員として活動するため



東通村食生活改善推進委員会のみなさん

に必要な20時間の養成講座の大変さや、高齢化による会員減少の悩みを語る一方で、「新しい料理を作るのは楽しいです。同じ郷土料理の『いかずし』でも、地域によってキャベツや麩を入れるところと入れないところがあり、『けんちん』も東通村の北と南の地区、さらには家庭によって全く違う。いろんな発見があって、とても面白いです。今後は、みんなが作ってみたいと思う笹餅、鯨餅、珍しいキュウリの佃煮などに、楽しみながら挑戦していきたいです」と活動の魅力と展望を明るく語ってくれました。



会長の南川さん

村内で元気に活動する人を紹介!

元気さん

漁師、農業、大工、ボランティア、毎日違うことに挑戦するのは楽しい!

元気さん 杉本 文悦さん(69歳)

漁師のかたわら、野菜作りを趣味とし、青森県山地防災ヘルパーや青森県自然保護指導員としても頑張る、杉本文悦さんにお話を伺いました。

東通村石持地区出身の杉本さんは、田名部高校を卒業後、東通村森林組合に勤務。60歳で退職し、その2年後から石持漁協の正組合員となりました。

「石持地区の先輩漁師、畑中政利さんに漁の技術を教えてもらい、タコ箱やアブラメカゴを使った漁を中心にしています。小さな魚でもカゴいっぱいに入っていればうれしく、量が少なくても大きな魚が入っていればそれもうれしい」と語ります。

漁のほかにも、大工の補助として働いたり、自宅の畑でジャガイモ、トマト、ニンジンなどさまざまな野菜を育て、椎茸の栽培にも取り組んでいます。

また、杉本さんは地域の安全や自然保護にも力を注いでいます。「青森県山地防災ヘルパー」としては20年前から活動しており、崖崩れの危険箇所などを県に報告するボランティアを続けています。このほか今年から「青森県自然保護指導員」としても活動しており、国有林であるヒバの埋没林を巡視し、倒木の有無や花の盗掘などを確認しています。

「兄を海の事故で亡くしているので、漁に出ることを心配されることもあります。でも、趣味と実益を兼ねて、どれも好きでやっていることなんです。野菜を人にあげるのも楽しいし、茹で方を研究したタコを食べてもらい『旨い!』と言われるとうれしい。まわりからは“立ち止まると生きていけないマグロだ”って言われるけどね」と笑顔で話します。



元気の秘訣は、「朝・昼・晩、きちんと食べて、日中は好きなことに取り組み、夜は7時間ぐっすり眠ること。そして年に一度は健診に行くこと。これが健康であるための生活スタイル。昔から変わっていないんです。でも、一番はみんなに喜んでもらう、笑顔になってもらうこと。そのためにいろんなことに挑戦しています。ちなみに、来年はサツマイモも植えてみたい。あと10年はいろいろと頑張りたいなあ」と、未来への意欲を話していました。



りっぱなタコが獲れました



慎重にアブラメカゴを仕掛けます



畑に植えられたさまざまな野菜



東通Jr.バレーボールクラブ

小学校の部活動からスポーツ少年団に移行して3年目の今年、「ABA杯 青森県小学生バレーボール選手権大会 混合の部」で見事優勝を果たしたのが、「東通Jr.バレーボールクラブ」(保護者会長:西山直人さん)です。

クラブには、東通小学校の1年生から6年生までの23人が所属し、男女混合のチームとして活動しています。キャプテンを務める6年生の西山心結さんを中心に、全員が互いに声を掛け合う元気な子どもたちです。練習は週3回、小学校の体育館で2~3時間行うほか、練習試合にも積極的に参加しています。

指導にあたっているのは、子どもたちの保護者の、加藤義弘さん・直美さん夫妻と、奥島一典さん・蘭さん夫妻。皆さん、学生時代にバレーボールに取り組んでいたそうです。

練習メニューは、ランニング、ストレッチ、ダッシュ、パス、サーブレシーブ、レシーブ、サーブ、スパイクと続き、最後はゲーム形式で締めくくられます。



東通Jr.バレーボールクラブのみなさん

加藤コーチと奥島コーチは「特に大切にしているのはフォームです。基本のフォームが良くないと、良いパスもスパイクもできません。技術だけでなく、あいさつと声出しも自分から進んでできるよう指導しています」と話します。

クラブは、結成初年度こそ県大会で勝てませんでした。翌年は2大会で2位と3位に入り、そして今年、初の県大会優勝を果たしました。

子どもたちの集中力を持続させることや、下北地域で練習試合の相手チームが少ないことなど課題もありますが、夏のバーベキューや冬のクリスマス会などの行事も実施しており、子どもたちの楽しみの一つになっています。

両コーチは「とにかく真面目で純粋な子どもたち。優勝してうれし涙を流せたのは、経験として本当に良かった」と振り返りつつ、「バレーボールの魅力は、一人では点を取れないスポーツだからこそ、互いに支え合う心が育つこと。仲間のために良いプレーをしようという姿

勢が生まれるのです」と心の成長にもつながると評価します。

キャプテンの西山さんは「みんなが同じ目標に向かって、同じ気持ちになれば、もっと点が取れるようになる。もっともっと上に行けるように頑張りたい」と意気込みを語ります。

クラブの目標は、青森県で一番強くなって全国大会に出場すること。両コーチは「小学校を卒業して中学生、高校生になっても、バレーボールを続けたいと思えるよう、魅力を伝えていきます。いつかクラブから日本代表選手が誕生してくれば」と夢を語っていました。最後に一言。「このチームは1年生から入会できるので、早いうちからボールに触れられるのが強みです。ぜひ一緒にバレーボールをやりましょう!!」。



西山キャプテン



ランニング



準備運動



トスの練習



ゲーム形式



みんなであつんだ初優勝!



村内各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

写真は特派員が
自ら撮影したものです。



ぼくの自まんの鹿橋

東通村鹿橋在住 やまもと あおと
東通小学校(5年) 山本 蒼音さん(11歳)

ぼくの住んでいる地域は鹿橋と書いて「ししばし」と読みます。米作りが盛んな地域で、ぼくの家も農家なので、春と秋は手伝いをしています。周りの人に機械や米作



自分の名前が入った自慢のオリジナルTシャツ



今年も美味しく実りました

りを教えてもらいながら楽しんでいきます。

鹿橋は能舞に積極的にとりくんでいる地域です。鹿橋、青平(上田屋)、大利は能舞の「師匠どころ」とされています。

鹿橋の権現様や能面は、江戸

末期の火災

で焼けてしまったので、現在はむつ市大覚院熊野神社からゆずり受けたものを大切に使用していると師匠から教えてもらいました。能舞の歴史は古くとても興味深くていいですね。皆さんもぜひ見にきてください!!



権現舞



素敵な老部

あいない げんた
東通村老部在住 相内 元太さん(38歳)

老部には、現在240軒ほどの人々が生活しています。その昔は「相内家」「坂本家」の分家だけで8割を占めていたそうです。地名の由来はアイヌ語の「尻が曲がった川」という意味が転訛したものと言われています。

地元でなかあるかな?と考えたときにまず浮かんできた

のは「両皇神社」です。変わった名称ですが、祭神が伊弉岐命と伊弉冊命との両神であることからこの名が付い



両皇神社



両皇神社新築落成記念碑



老部の昆布

たようです。この両皇神社と、老部敬神会、老部婦人会によって、老部に古くから伝わる郷土芸能や風習が今も大切に守られています。

また老部は、海の幸にも恵まれています。ウニなどの海産物はもちろんですが、一番のおすすめは昆布です。年間6トン前後の水揚げがあり、干して出汁昆布にしても炒め物にしても最高です。

そして、老部には日常生活に必要なものがだいたい揃っています。派手さはありませんが、この「普通」の生活が、生きて一番幸せなことではないでしょうか。旅行が趣味で地球上いろいろ歩きましたが、やっぱりこんな老部が大好きです。

発行 東北電力(株)東通原子力発電所広報課
〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227



しおさい、PSつうしんの
バックナンバーはこちら

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



当発電所へのご意見・
ご要望をお寄せください

編集後記

しおさい第33号、いかがでしたでしょうか?

2006年の創刊以来続いてきた「ふるさと見聞録」は、前号の第32号をもって村内29集落を一巡しました。長い間ご愛読いただき、本当にありがとうございます!

今回から、新企画「ふるさと歴史探訪」がスタートしました。東通村とその周辺の歴史を、自然の成り立ちから縄文、近世、そして現代に至るまで、時代を追ってご紹介していきます。

「国内唯一のアワビの貝塚ってどんなもの?」「能舞が伝わったころ、東通村ではどんな暮らしをしていたの?」「昭和の生活が紹介されるかな?」など、楽しみにお待ちしております。この新企画は、読者の皆さんと一緒に育てていきたいと考えています。ご感想やご意見をお待ちしています!

今後も、東通村の皆さまに親しんでいただける誌面づくりに努めてまいりますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願いたします。